

講演抄録

異業種経験者が挑む義歯製作工程の再構築

銀行で個人・法人向け金融業務に従事していた私が、伝統的な職人の世界に飛び込んで感じたカルチャーショックは想像以上でした。日付をまたぐ残業、職人の経験と勘に頼った作業、非効率な工程に直面し、幼少期から見ている光景ではありましたが、他業を経験してからあらためて見るその様子に「何とかしなければ」と強く感じました。

特に義歯製作工程の再構築には決意をもって臨みました。金属積層造形装置の導入では、初期投資の大きさと技術習得の困難さに直面しましたが、結果的に大幅な工程短縮を達成できました。しかし単なる設備導入だけでは成果は得られず、スタッフとの対話を重ね、品質管理体制の見直し、新規取引先の開拓まで一体的に進める必要がありました。

異業種から参入した立場だからこそ客観視できた業界の課題と可能性、そして金属 AM を活用した具体的な改善事例を、失敗体験も含めて率直にご紹介します。技工士資格を持たない経営者の視点が、皆様の今後の取り組みに何らかの参考になれば幸いです。

経歴

1986年	鳥取県倉吉市に生まれる	
2009年	下関市立大学	卒業
同年	鳥取銀行株式会社	入行
2016年	同行	退職
同年	有限会社倉繁歯科技工所	入社

兼職の状況

2021年	鳥取県よろず支援拠点	コーディネーター就任（現在は退任）
2024年	合同会社福ノ鳥	代表社員

講演者紹介

倉繁歯科技工所専務取締役。鳥取銀行にて個人資産運用、住宅ローン、法人融資業務を経験後、祖父の代から続く家業の歯科技工所経営に参画。金融業界で身につけた分析力を活かし、義歯製作工程の効率化と金属積層造形装置をはじめとするデジタル機器の導入を推進。国内主要歯科大学との新規取引開拓にも貢献、歯科技工士が持つ能力を活かし他業からの受注も獲得している。技工士資格は持たないが、経営者として未来を切り拓く取り組みを続けている。

講演抄録

『義歯分野における、デジタル化の現状について』

我が国の総人口は減少を続けている一方で、65歳以上の高齢者は増加しており、2040年には3,900万人に達し、総人口の約35%を占めると予測されている。義歯需要が高まる中、製作する歯科技工士は減少傾向にあり、昨年度の国家試験合格者数は僅か684人という危機的な状況となっている。

このような局面で義歯の安定供給を確保するためには、デジタル技術による生産性の向上が必須と考える。しかし、軟組織をベースとする義歯分野のデジタル化は、依然としてさまざまな製作上の課題が存在しており、従来技術で対応した方が、結果として良好な場合も多い。

それでもなお、デジタル化には「設計の数値化」「品質の平準化」「正確な情報共有」「生産性の向上」など多くの利点があるため、弊社ではこれらのメリットを活かし、積極的にデジタル技術を導入して日常臨床に対応している。

そこで本講演では、当社における義歯のデジタル化の現状について、臨床例を踏まえながら解説させていただく。

鈴木 啓太（歯科技工士） 株式会社横浜トラスト歯科技工研究所 専務取締役

【所属学会】一般社団法人 日本デジタル歯科学会（デジタル歯科技工技術認定士）
有床義歯学会 Japan Plate Denture Association

【所属団体】一般社団法人 日本歯科技工所協会
一般社団法人 神奈川県歯科技工士会

〔Profile〕

2007年 新東京歯科技工士専門学校 卒業

2007年～2017年 二箇所の技工所で研鑽を積む

2017年 株式会社 横浜トラスト歯科技工研究所 入社

2023年 株式会社 横浜トラスト歯科技工研究所 専務取締役就任

第9回日本国際歯科大会 テクニカルコンテスト 補綴装置部門 最優秀賞受賞

日本デジタル歯科学会・第14回学術大会歯科技工コンペディション優秀賞受賞

演者紹介

2017年に株式会社横浜トラスト歯科技工研究所に入社。当時から、「自費技工に携わりたい」という強い思いがあった。そんな時に、金属床義歯のデジタル化に活路を見出し、苦勞の末、ワックスミリングによる製作システムを確立させた。今では、日常臨床に加え、講演や執筆等の依頼を頂く機会も増え、やりがいを感じながら、充実した日々を送っている。